

# 大崎ひまわり訪問看護ステーション

**症例概要** ご利用者：80代後半 女性 要介護4  
利用期間：令和元年5月～現在も利用  
経過：平成30年蜂に刺され、約1か月意識障害、敗血症にて全身状態悪化。寝たきり状態へ。リハビリ目的で転院、その後在宅に移行。在宅移行時には褥瘡痕あり、D3まで悪化。自宅で褥瘡治療開始し1年半後には治癒。その後体調安定し、デイサービス等も利用し在宅生活を継続出来ていたが、令和5年1月ショートステイ中に転倒し左大転子部骨折。手術施行しリハビリ目的で、療養中に褥瘡発生。退院後自宅で褥瘡ケア実施。

## 内 容

平成30年に蜂に刺され意識障害、敗血症にて全身状態悪化し入院。入院中に仙骨部にD3の深い褥瘡発生し、治癒しないまま退院となり在宅へ移行。

在宅移行をきっかけに、大崎ひまわり訪問看護ステーションの看護師訪問が連日介入。褥瘡の感染悪化を繰り返し不安が増すなか、娘さんへの栄養管理と除圧方法を助言し、精神的サポートをしながら約1年半で完治しました。

令和5年1月ショートステイ中に転倒し左大転子部骨折。医師からは年齢的に手術のリスクは高いと説明されたが、ご本人の強い希望にて手術。ご家族もご本人の強い気持ちを汲み取り、リスクを承知で手術を選択した。しかし入院中に左踵部に褥瘡発生。娘さんは前回褥瘡を治癒させた過去の経験から、在宅でケアしたいと自宅へ連れて帰り、2回目の褥瘡ケアが開始となりました。

お手製の除圧グッズを作成し、愛情と工夫がたっぷりの食事でサポート、ひまわりでは、褥瘡処置と娘さんの精神的サポートをしながらワンチームで取り組みました。その結果、21日で褥瘡治癒しました。

高齢で術後、廃用症候群のリスクも高い中、リハビリの早期再開により離床が図られ、今は入院前と同様にデイサービスへ通い、昔からのご友人と楽しく過ごしています。自宅では、お婿さんも積極的に介護に関り娘さんのフォローをしてくれています。娘さんとしては、ご家族で北海道旅行を目標に、日々仕事、介護、時にはお孫さんのお世話とパワフルに前向きに介護されています。「ひまわりさんが関わってくれたから、2度の褥瘡と骨折を乗り越え、自宅で今も一緒に過ごさせています」と娘さんが話して下さいました。今後も利用者さんらしい生活を送ることができるよう、愛情をもって親身な対応でチームアプローチを継続していきます。